

第9回産業日本語研究会（東京・丸ビルホール）

日本に住む外国人の80%以上が理解する 「やさしい日本語」の構造

（予稿集用原稿）

佐藤和之（弘前大学）
2018年3月5日

「やさしい日本語」内容梗概

「やさしい日本語」という表現法がある。災害への備えで、国や地方行政、コミュニティFMなどが導入を進める。

2016年11月22日朝の「すぐ にげて」「つなみ！にげて！」と伝えたテレビでの津波警報が象徴的である。

同時刻にスマートフォンから伝えられた「やさしい日本語」による緊急地震速報や緊急津波速報は2015年から行われている。

「やさしい日本語」は、日本に住んで1年以上の外国人なら、出身が漢字圏か非漢字圏かに関わらず、等しく80%以上が理解できる文法表現で伝える日本語のことである。

外国人に、日本語だけど読んでみよう、聞いてみようと思わせる表現規則と情報の配列規則に基づく。命に関わる情報を可能な限り簡潔に、やさしく言い換えて伝える。

シンポジウムではそのような「やさしい日本語」の構文を紹介する。

大規模災害発生からの72時間と被災者に伝えるべき情報の表現

災害発生からの72時間で伝える情報は、受け手が的確に理解し、また伝える側も正確かつ迅速に作れる表現でなければならない。

災害発生下での情報はつぎつぎに生じ、すぐに変化する。さらに日本にはいろいろな国のことばを話す外国人も住む。それら情報を外国語にする人手も時間もないのが災害である。

このことへの対処策として、おおむね2000の語を12の規則にそって伝える災害発生後72時間のための日本語表現を規則化し提案した。2017年6月末の活用数は、国や47都道府県を合わせ700事例である。

- 1) 大規模災害下を生き延びる情報を保障する
- 2) 多言語支援を妨げない
- 3) 誤訳が少なく迅速な多言語化への元文となる
- 4) リアルタイムで行政が外国人住民に情報を伝えられる
- 5) 日本人への情報伝達を補完する
- 6) 外国人住民に地域復興の力となってもらえることばである

日本に住んで1年以上・出身国が漢字圏か非漢字圏かに関わらない80%以上の外国人が理解する「やさしい日本語」の表現とは

【津波からの避難指示】

津波が くるかもしれません。
津波は 海から 来る 高い 波です。
海や 川の 近くへ 行かないで ください。
津波は 何回も きます。すぐ 逃げて ください。

【避難所への誘導】

近くの 避難所に 行って ください。
避難所は みんなが 逃げる ところです。
外国人も 使うことが できます。
ぜんぶ 無料です。お金は いりません。

災害発生直後は、防災無線や市町村役場の広報車で伝える。
放送文は1分あたり、すべてひらがなで書いて360文字を読む。
この読み方だと外国人にも日本人にも受け入れられ、よく理解される。

注意 Attention 주의 Attenção

もらうことが できます



あたたかい 食べ物を
もらうことが できます
お金は いりません

(ところ) _____

(時間) 午前・午後 _____ 時 _____ 分から
午前・午後 _____ 時 _____ 分まで

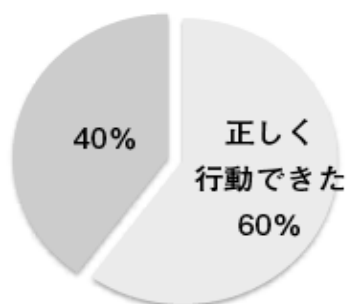
(作った 日) _____ 年 _____ 月 _____ 日 (作った ところ) _____ 93

- ① 避難している外国人が注目するように居住外国人の母語で見出しを付ける
- ② 見出しは大きく、太く書く
見出し語は動作を表すことばにする
- ③ 「やさしい日本語」で伝えている情報を補うイラストを載せる
イラストは簡潔に、重要な要素だけにする
- ④ 伝えたい情報や行動を指示する内容を「やさしい日本語」で表現する
- ⑤ 漢字にはふりがなを付ける
- ⑥ 必要に応じて地図を載せる
地図は最小限の情報で、単純化する
- ⑦ 場所の説明は大きく、目立つように書く
この漢字へもふりがなを付ける
- ⑧ 時間は午前・午後を使った12時間表記にする
- ⑨ 情報の新旧と信頼度を伝えるため、掲載物を作った年月日と機関の名称を書く
年は西暦を使う
□内に掲示資料番号を付ける

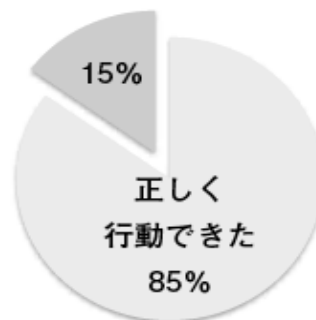
避難所に移ってからは、生活のための情報を掲示物で知らせる。そこには日本人用の掲示物もたくさん貼り出されている。

その中にあって外国人の目を引くもの、そして日本語だけど読んでみようという気にさせる、さらに、日本人にも受け入れられる情報の書き方と表現にしている。

やさしい日本語の信頼性



普通の日本語による行動指示
(N = 43)



「やさしい日本語」による行動指示
(N = 42)

読みことばと書きことばを使った「やさしい日本語」の有効性を検証した

日本語能力が初級後半から中級前半の、漢字圏と非漢字圏出身の外国人による二つのほぼ等しいグループによって実験。読みことば（放送）と書きことば（掲示物）による同じ内容の指示を一方は普通の日本語で、他方は「やさしい日本語」で伝えた。

- 「やさしい日本語」の方が指示された通りの行動をしていた
その理解率（指示の達成率）は最小で85%、最大で91%だった
- 普通の日本語による理解率は29% から良くて60% だった

「やさしい日本語」文法12の規則

災害時に外国人が的確な行動を起こせる表現のための「やさしい日本語」は12の文法規則から成る

- (1) 難しいことばを避け、簡単な語を使う
日本語能力検定試験の旧4級と3級の約2000語を使用
(「火災が発生しました」を、「火事がおきました」に言い換える程度)
- (2) 1文を短くする
(平仮名だけで書いたとして、24文字以内を目指す)
- (3) 災害時によく使われることばや知っておいた方がよいことばは、そのまま使う
(たとえば津波、震度、余震、避難所等には説明を加えて使う)
- (4) カタカナ外来語はできるだけ使わないようにする
ダイヤル ……原語とは意味が違うので通じないため
ライフライン… 原語とは意味が違うので誤解を招くため
デマ…………… 原語では行われない省略なので意味が通じないため
- (5) 擬態語や擬音語は使わない
- (6) 動詞を名詞化した表現はわかりにくいので動詞文にする
(「壁に割れを見つけたら」のような表現のこと。名詞になっている「割れ」を「割れたところ」と、動詞にして伝える)
- (7) あいまいな表現は避ける
- (8) 二重否定の表現は避ける
(「飲めないことはない」といったような表現のこと)
- (9) 文末表現はなるべく統一する
(指示や注意喚起、可能なことなどを確実に伝えるため)
- (10) ことばのまとまりを認識しやすいよう短いポーズを多く用いる
- (11) 使用する漢字や漢字の使用量に注意する
(一文あたり3から4字が目安)
また、全ての漢字にルビを振る
- (12) ローマ字は使わないようにする

「やさしい日本語」の応用

「やさしい日本語」は、日本語能力が初級の外国人が、災害時に生き延びるための情報を伝えることを目的に考え出された。

災害下では外国人だけでなく、日本人にとっても「やさしい日本語」は効果がある。情報は錯綜し、判断能力が著しく低下する状況にあって「やさしい日本語」による情報は、的確な判断に役立つ。

日本人にとっての「やさしい日本語」はまた、子供から高齢者までの日本語を母語とする人たちにとって、もっとも得意な外国語となる。

だからと言って、もし「やさしい日本語」の文法規則を拡大解釈、あるいは日本人にとってより自然な日本語表現にしてしまうと、それは初級外国人が理解できる「やさしい日本語」でなく、日本人にとってわかりやすい日本語に変質してしまうことに注意しなければならない。

このことを理解した上での「やさしい日本語」の応用が大切である。そこで研究室と研究会は、災害下の外国人を対象にした「やさしい日本語」には「 」を付し、それ以外の用途のわかりやすい日本語には「 」を付さないやさしい日本語にする提案もしており、災害下の外国人住民の安全を担保するようにしている。

「やさしい日本語」を学ぶ初期段階で 必要な資源の情報とアドレス

弘前大学の社会言語学研究室と「やさしい日本語」研究会は、「やさしい日本語」で被災外国人に情報を伝えようとしている機関やボランティアに向けて「やさしい日本語」資源を無料で公開している

- 「やさしい日本語」について詳しく知りたいとき
弘前大学人文学部社会言語学研究室・減災のための「やさしい日本語」研究会
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ3mokuji.htm>
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ejpamphlet2.pdf>
佐藤和之(2016)「外国人被災者の負担を減らす『やさしい日本語』」
『わかりやすい日本語』くろしお出版
- 「やさしい日本語」で使える語彙と漢字について知りたいとき
「やさしい日本語」語彙・漢字表
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ej-p8.html>
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ej-p7.html>

- 「やさしい日本語」の有効性と信頼性について知りたいとき
公開実験「みんなで減災2005 in ひろさき ～ 災害情報を「やさしい日本語」で」概要
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ10honjikkenngaiyou.htm>
馬場康維(2007)「実験による検証」『「やさしい日本語」が外国人の命を救う』「やさしい日本語」研究会
- 「やさしい日本語」にする12の規則を知りたいとき
『〈増補版〉「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ej-gaidorain.pdf>
- 「やさしい日本語」文の作り方を知りたいとき
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-pdf/1-annbunn/zouho35-46EJtukurikata.pdf>
- 「やさしい日本語」へ独学で翻訳できるようになりたいとき
「Eラーニング版 わかる！伝わる！はじめての『やさしい日本語』」
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/e-learningtop.html>

- 外国人住民や外国人児童へスマートフォンを使って緊急連絡したいとき
 - さくさく作成！「やさしい日本語」を使った緊急連絡のための案文集
～災害時における学校や自治体からのお知らせ編～
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/sakusaku.html>
 - さくさく作成！「やさしい日本語」を使った緊急連絡のための案文集②
～災害時におけるスマートフォンメールでの連絡編～
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/sakusaku2-smart-top.html>
- 「やさしい日本語」の具体例を体系的に入手したいとき
『増補版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-top.html>
- 防災無線や広報車、コミュニティFMなどでの放送に使う案文を知りたいとき
 - 放送用 時系列案文
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-pdf/1-annbunn/zouhohosokuanbun-jikeiretu.pdf>
 - 放送用 情報内容別案文
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-pdf/1-annbunn/zouhohosokuanbun-naiyou.pdf>
 - 外国人にも日本人にも伝わる「やさしい日本語」放送文の読み方スピード
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/onnseikennsyoukekka-bunki.html>

- 「やさしい日本語」を使った掲示物の具体例について知りたいとき
 - ポスターやビラで知らせる
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/poset-ikkatubannngounasi.pdf>
 - 新しくポスターやビラを作る
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-pdf/2-keizibutu/151-184poster-tukuru.pdf>
- 「やさしい日本語」を周囲に説明するパンフレットが欲しいとき
 パンフレット・「やさしい日本語」が外国人被災者の命を救います。
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ejpamphlet2.pdf>
- 「やさしい日本語」化支援システム（YAsashii Nihongo Slen System）ソフトが欲しいとき
 東北大学 大学院工学研究科 通信工学専攻 伊藤彰則研究室
<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/> （パソコン用）
<https://play.google.com/store/apps/details?id=util.ejadvisor3app>
 （アンドロイド用）
- 「やさしい日本語」についてのその他の資料や情報が欲しいとき
 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室サイトマップ
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/sitemap.htm>

「やさしい日本語」活用の広がり

「やさしい日本語」を使って外国人住民に災害時の情報を伝えるという考え方は、内閣府での施策にも反映されている。

内閣府では、日本語能力に不安のある日系定住外国人に対しての情報提供の在り方を検討しているが、「やさしい日本語」は速やかで正確な情報提供が可能なことから、通常時のみならず災害発生時等にも大きな効果を発揮することが期待されており、内閣府のみならず全国的にも普及させる必要がある。（『定住外国人施策ポータルサイト掲載におけるやさしい日本語の活用に関するPlain English（平明な英語）についての調査』）

「やさしい日本語」研究に携わる協働研究者

「やさしい日本語」研究は、弘前大学の学生とさまざまな機関の研究者、行政職員、消防職員、医療者、コミュニティFMおよびNPO職員との協働で行われている。参加している研究者等の所属機関は以下の通り（五十音順）。

NPO法人CAST・京都工芸繊維大学・コミュニティFMアップルウェーブ・国立国語研究所・さかもとともみクリニック・佐藤内科医院・大東文化大学・統計数理研究所
 東京農工大学・東北大学・弘前消防事務組合・ひつじ書房・弘前大学・藤盛医院